

長周期地震動に関する予報の発表イメージ(事務局素案)(概要版)

1. 予報のあり方

- (1) 予報の目的: 高層ビル等の建物内の滞在者の安全の確保等
- (2) 対象ユーザー: 高層ビル・高層マンション等の滞在者(身の安全を確保)、防災センター、施設管理者等(館内放送や機器制御)
- (3) 発表主体: 気象庁が発表する予報(即時に理解し対応するために必要な要素を記載した簡潔な情報)
予報業務許可事業者に期待する予報※(個別のビルに対する予想など多様な情報)
※予報業務許可事業者に期待する予報の詳細については、本資料の対象外(次回以降の検討会にて審議予定)
- (4) 位置付け: 長周期地震動と災害の関係について今後も調査が必要なため、当面、警報ではなく、予報として発表

2. 予報の内容

- (1) 長周期地震動による大きな揺れの予想とその予報区を基本要素
- (2) 長周期地震動階級と到達予想時間は補足的要素として予報に記載
- (3) 長周期地震動の継続時間はニーズは大きいですが、当面は定性的表現
- (4) 予想手法: 緊急地震速報の震源情報と絶対速度応答スペクトルの距離減衰式、観測点補正手法を利用し予測

3. 予報の提供基準

- (1) 発表タイミング: 緊急地震速報の震源精度が高いと想定される段階以降
- (2) 発表基準: 最大階級2以上が予想される場合に、階級1以上が予想される予報区。続報は階級の上昇時(階級1未満→2以上)のみ。

4. 予報の伝達について

- (1) 緊急地震速報とは別電文
 - (2) 配信方法※
 - ・地方自治体等の防災機関
 - ・テレビやラジオ
 - ・携帯電話等を利用した配信
 - ・予報業務許可事業者や配信事業者による配信
- ※不特定多数に伝達可能な配信経路については、それらの利点を意識しつつも、情報過多を加速し混乱に繋がらないよう十分検討する必要あり。

「長周期地震動に関する予報のあり方についての報告書(仮)」に関するスケジュール(案)

	H26年度下	H27上	H27下	H28上	H28下	H29上	H29下
報告書骨子	検討 →	★ 公表					
報告書最終		検討 →	★ 公表				
検討会・予測WG	→	→	→	→	→	→	→
予報開始準備				→	→	→	
予報開始						★ 予報発表開始 →	→